

令和7年度

運営に関する計画  
(最終評価)



大阪市立瓜破西小学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校は、『確かな学力の向上を図り、豊かな心と健やかな体を育成する』を学校教育目標に、目指す子ども像を「主体的に学び、考え、ねばり強く取り組む子」「互いの良さを認め合い自分と友達を大切に作る子」「健康や体力の向上に努める子」とし、日々の教育活動に取り組んでいる。

若手教員の多い本校では、授業力・学級経営力、保護者対応力の向上に注力してきた。研究授業を中心に、日々の授業観察後の指導を充実させて授業力の向上を図ることをはじめ、学校力UPコーポレーターによる指導や様々な研修を通して学級経営力をつけるとともに、報告・相談・連絡を密にし、組織的な対応をすることによって保護者対応力をつけている。

児童については、大変子どもらしく素直である。明るくて人懐こいという良さを持っており、教師の指導をよく聞き、実行しようとする。また、3年間の総合的な学習や生活科を研究教科として主体的な学びの充実に取り組んだ結果、主体的な学びに向かう態度が向上した。過去3年間は、国語科を研究教科として、教師の授業力を向上させ児童の言語力の育成を図った。昨年度より、算数科を研究教科としてさらに主体的で協働的に取り組む授業を目指し、研究を進めていく。

一方で、一部の児童は基本的な生活習慣が十分定着できておらず、遅刻や忘れ物が多く授業に対する備えができていないことが多い。こうした児童に対して、学力向上の対策として、基礎・基本の定着をめざした朝学習に取り組むとともに、放課後は、サポーターと教諭の監督の下、宿題プラス自主学習に取り組む放課後学習を組織化することで、既習事項の定着を図り、下位層の児童の学力を支えている。

本校の特長として、大阪市には珍しく広い運動場と自然に恵まれた校庭がある。この豊かな自然を本校の宝とし、ヤギ・ウサギ・鳥などの動物の飼育と栽培活動に力を入れている。4年前からは、E S D(持続可能な社会を形成するための人材を育成する教育)を展開し、循環型の飼育栽培活動(ネイチャー活動)に地域とともに取り組んだ。その取り組みは高い評価を受け、様々な機関から表彰された。ネイチャークラブの活動は、児童の自主性や責任感、他の児童に対する思いやりの心を育成し命を尊び畏敬の念を抱かせる活動になっている。また、児童や保護者・地域に高評価を得ている和太鼓クラブは児童の自信と向上心達成感の育成に大いに貢献している。これらの特色ある取り組みは、児童に自己実現と自信を与えメンタル面を望ましい方向に強化し、学力の下支えとなっている。

また、地域やPTAなど学校を支える環境にも大変恵まれている。多くの地域の人々が、学校の応援団として教育課程内外で様々な活動にかかわってくださっており地域とともにある学校が実現されている。さらに地域と関係を深め、学校を地域のコミュニティの場となるよう発展させていきたい。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

1. 学校児童アンケートで「学校生活は楽しい」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で前年度の60%を上回る。
2. 学校児童アンケートで「じぶんからあいさつをしている」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で70%を上回る。
3. 校内アンケートの「点検表どおりのそうじができていいる」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で68%を上回る。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

1. 児童アンケートの「よく本を読んでいる」で肯定的な回答をする児童の割合を前年度の65%を上回る。
2. 学校児童アンケートの「よく宿題をしている」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で前年度の60%を上回る
3. 学校児童アンケートの「授業中話あう活動ができた」で最も肯定的な回答をする児童の割合を前年度の60%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

1. 教育コミュニティづくりを推進し、地域との新たな取り組みを開発する。
2. 年度末の児童アンケートの「学校の中で地域の人とふれあう機会があるか」の項目で肯定的回答が75%を上回る
3. 年度末の教員アンケートで「校内研修が充実していたか」で肯定的回答が75%を上回る。

## 2 中期目標達成に向けた年度目標（施策目標を含む）

### 年度目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### 施策目標を達成するための年度目標（小学校）

1. 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
2. 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
3. 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

##### 学校の年度目標

1. 学校児童アンケートで「学校生活は楽しい」で肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合で前年度85%を上回る。
2. 学校児童アンケートで「じぶんからあいさつをしている」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で70%を上回る。
3. 学校児童アンケートの「点検表どおりのそうじができています」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で68%を上回る。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### 施策目標を達成するための年度目標（小学校）

1. 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を42%以上にする。
2. 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
3. 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
4. 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
5. 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。

##### 学校の年度目標

1. 児童アンケートの「よく本を読んでいる」で肯定的な回答をする児童の割合を65%を上回る。
2. 学校児童アンケートの「授業中話あう活動ができた」で最も肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 施策目標を達成するための年度目標（小学校）

1. 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
2. 学校保護者アンケートにおいて「学校はICT機器を活用した教育を推進している」で肯定的な回答の割合を90%以上にする。

3. 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を **70%**以上にする。

#### 学校の年度目標

1. 教育コミュニティづくりを推進し、地域との新たな取組を開発する。
2. 年度末の児童アンケートの「学校の中で地域の人とふれあう機会があるか」の項目で肯定的回答が **70%**を上回る。
3. 年度末の教員アンケートで「校内研修が充実していたか」で肯定的回答が **75%**を上回る。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

本年度は、月 1 回の生活指導全体会の定例化やスクリーニングシートの更新、外部機関との組織的な連携により、いじめや不登校への予防的な体制を継続した。校内環境面では、掃除点検表の導入により清掃活動への肯定的な回答が大幅に改善し、1 学期の 51%から最終的には 65%にまで向上した。また、学校の特色であるアトリパークを活用した動物介在教育や、地域資源を生かした各学年の学習活動も、児童の主体性の育成に大きく寄与した。

一方で、「いじめはどんな理由があってもいけない」と強く認識する児童の割合は 73%にとどまり、目標とした 85%を下回る結果となった。知識としての理解を「自分事」として捉え、適切な行動を選択させる指導に課題を残している。また、「自分からあいさつをする」児童の割合も 48.7%と目標（70%）に届かなかったため、次年度は教師主導の啓発から児童主導の活動へと移行し、地域とも連携しながら自発性を促す仕組みづくりを推進していく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学習面では、ペア交流やグループ活動を積極的に取り入れ、授業中の話し合い活動に対する肯定的な回答は 85.4%と高い成果を得た。外国語教育では C-NET との連携によるアクティビティが児童の興味を引き、理科教育でもアトリパークでの観察学習が定着している。体力面では、駆け足タイムや大縄大会、栄養教諭による食育授業を通じて、健康的な生活習慣の定着を図った。

しかし、「よく本を読んでいる」児童の割合は 60%となり、目標の 65%には届かなかった。今後は様々な方面から、本に親しむ質の高い機会の提供が求められる。また、学習者用端末を活用した朝学習は、機器の起動時間や手続きの多さから実施が困難であったため、今後はデジタルドリル等の実態に即した運用への見直しが必要である。さらに、算数科の研究で培った思考の可視化・共有を他教科へ広げ、話し合いの質をさらに深めることが次年度の課題である。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

ICT 活用においては、デジタル教科書や協働学習支援ツールの「1 日 1 回以上の活用」という指標を全校で達成し、日常的な活用が定着した。働き方改革についても、時間外勤務の抑制に努めた結果、基準を満たす教員の割合が 70%に達し、昨年度の 41%から大きく改善した。地域連携では「瓜西フェスタ」やアトリパークでの活動を継続し、教育コミュニティづくりの推進を実現している。

研修面では、若手教員を対象としたメンター研修が月 1 回以上実施され、教員アンケートでの研修充実度は 100%と極めて高い評価を得た。今後は、活用の頻度を維持するだけでなく、児童の思考をより深める場面での「活用の質」を高める検討を進める。併せて、特定の教員への負担集中を避けるための組織的な業務分担の見直しを継続し、持続可能な教育環境の構築を目指していく。

大阪市立 瓜破西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（小学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <b>85%</b> 以上にする。</li> <li>2. 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を <b>前年度より</b> 減少させる。</li> <li>3. 年度末の校内調査において、<b>前年度不登校児童の改善の割合</b> を増加させる。</li> </ol> <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校児童アンケートで「学校生活は楽しい」で肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合で前年度 <b>85%</b> を上回る。</li> <li>2. 学校児童アンケートで「じぶんからあいさつをしている」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で <b>70%</b> を上回る。</li> <li>3. 学校児童アンケートの「点検表どおりのそうじができています」で最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する児童の割合で <b>68%</b> を上回る。</li> </ol>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・不登校に対する予防的・組織的な対応</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>いじめをしない・させない取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや児童の問題行動を把握したり相談したりする組織をつくり、月1回程度、生活指導全体会を設ける。</li> <li>・いじめアンケートを学期に1回実施し、いじめ事案に対して詳しい聞き取りを行い、組織的な解決を図る。（3か月以上同様のいじめがないこと）</li> </ul> <p>情報モラル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部組織と連携し、情報モラルに関する研修会を年間1回以上行う。</li> </ul> <p>不登校についての未然防止と解決を図るための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーニングシートを学期に1回以上更新する。スクリーニング会議を学期1回設け、家庭に課題のある児童について区の子どもサポートネットと連携して家庭へのアプローチを図る。必要に応じてSCやSSW、関係機関と連携する。</li> </ul>	B

<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 互いを大切にし、豊かな心を育むための校内環境の充実と教育活動の推進</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p><b>校内環境の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除点検表を整備して、作成された点検表をもとに毎週末児童が清掃の点検が行い、清掃への意欲を高める。</li> </ul> <p><b>人権教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESDに基づいた人権教育実践の報告文書を作成し、年度末（2月ごろ）に報告会を行う。</li> </ul> <p><b>ESDの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の資質向上のため、ESDに関する研修会を年間1回程度行う。</li> </ul> <p><b>動物介在教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特色である動植物を活用した取組を、全学年で年間1回程度行う。</li> </ul>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 あいさつをはじめ、適切な社会性を身につけるための取組</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p><b>あいさつに関する取組の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から率先してあいさつすることができるよう、あいさつを推進する取組を学期に1回以上設定したり、全校朝会であいさつの大切さを啓発したりする。</li> </ul>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 地域を大切にし、郷土愛を育むために、地域資源の活用</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p><b>地域教育資源の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平野区や大阪市を中心に地域の団体や施設を各学年で年2回以上利用し、地域を大切にすることを育む。</li> </ul>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の生活指導全体会を定例化し、全教職員がいじめアンケートの結果や児童の状況に関する情報を共有する体制を継続した。不登校や別室登校の児童に対しては、スクリーニングシートを毎学期更新し、スクールカウンセラー（SC）や関係機関（子どもサポートネット、スクールソーシャルワーカー（SSW）等）と連携した家庭訪問や個別面談を組織的に実施した。</li> </ul>	

・中間時点では、SNSトラブル防止に向けた情報モラル教育が課題となっていた。その後、ICT支援員による研修の実施や学習ポータルを活用したモラル学習を推進するとともに、学習参観の機会を通して保護者への啓発も行った。その結果、大きなトラブルを未然に防ぐための学習を着実に進めることができた。

・いじめ・不登校に対しては、組織的な把握と外部連携は定着している。一方で、いじめに対する強い規範意識（目標 85%）に対し、最終結果は 73%に留まった。知識としての理解だけでなく、自分事として捉えさせる指導の継続が必要である。

#### 取組内容②

・清掃活動では、2学期より掃除点検表を導入し、週末に班や個人で振り返りを行う活動を習慣化した。中間時点では、低学年の習慣化と高学年の意欲向上が大きな課題であった。これに対し、掃除点検表による可視化と振り返りを行った結果、1学期に 51%だった肯定的な回答が、最終的には 65%（目標 68%）まで大幅に改善した。

・6月に大阪公立大学の井伊先生をお招きしユネスコスクール（ASPnet）やESDについての研修会を実施した。また、アトリパークの動植物を活用した命を大切にする体験学習を全学年で実施した。動植物を通じた体験学習は、児童の主體的な学びを支える本校の強みとして有効に機能している。

例 1年：アトリ他動物の学習、Feelink 出前授業（葉のフロッタージュ）

2年：野菜の栽培学習、Feelink 出前授業（野菜の浮き沈み）

3年：草花博士の出前授業、Feelink 出前授業（トンボの学習）

4年：理科の学習での活用

5年：米作り

6年：理科の学習での活用

#### 取組内容③

・児童会によるあいさつ運動、学期ごとの重点期間の設定、全校朝会での講話などを通じ、継続的な啓発活動を行った。中間評価では「自分からあいさつをする」児童が 46%（目標 70%）であり、主體的な行動が十分に広がっていないことが課題として挙げられた。最終評価に向けて啓発を強化したが、結果は 48.7%とわずかに増加にとどまり、目標達成には至らなかった。

#### 取組内容④

・人的資源を活用した学習を各学年で年 2 回以上実施した。中間時点から計画通り順調に進捗しており、最終評価でも地域連携の充実は高く評価された。地域という生きた教材に触れることで、社会への関心や郷土愛が育まれた。外部講師を招いた授業は、教員自身の指導の幅を広げる効果も生んでいる。

例 1年：長居公園への遠足 大阪城公園

2年：平野図書館見学 大阪城公園

3年：校区探検 スーパー コンビニ

4年：大和川水生生物調査 平野区クラフトパーク

5年：モビリティタウン見学

6年：ピース大阪見学 歴史博物館

## 次年度への改善点

### 1. いじめ・不登校への対応

「いじめは、どんな理由があってもいけない」と強く認識する児童が目標（85%）を下回った現状を受け、単なる知識の伝達に留めない。道徳や学級活動等において、具体的場面を想定した議論やロールプレイを行い、児童が自分事として深く考え適切な行動を選択できるような取組を推進する。

また、スクリーニングシートによる早期発見体制を維持しつつ、不登校傾向にある児童への支援の充実化を図る。SC や SSW 等の専門家、及び関係機関との連携を強化し、家庭訪問や個別相談を粘り強く継続することで、児童一人ひとりの状況に即した柔軟な登校支援を行う。

### 2. 豊かな心を育む活動

掃除点検表の活用により、肯定的な回答が大きく改善した成果を確実に定着させる。次年度は、点検表の運用が形骸化しないよう、優れた取り組みの紹介や称賛の機会を定期的に設けるとともに、美化委員会の活動の場を増やすなど、児童が環境美化に自発的に取り組む意欲と達成感を持てるようにする。

アトリパーク等を活用した動物介在教育や ESD は、児童の主体性の育成に有効である。これを単発の活動に終わらせず、理科や生活科などの教科学習と計画的に結びつけることで、児童の探究心をより引き出す体験型カリキュラムへと発展させる。

### 3. あいさつ・社会性の育成

「自分から」あいさつをする主体的な姿勢が最大の課題である。これまでの教師主導の啓発から、児童会活動など児童自身が企画・運営する活動へと移行し、児童があいさつの心地よさや意義を実感できる仕組みを構築する。

また、あいさつを学校内だけの活動にとどめず、見守り隊や保護者と連携して地域全体であいさつを交わす雰囲気を作る。学校・家庭・地域が一体となった継続的な声かけにより、日常生活における社会的習慣としての定着を図る。

### 4. 地域資源の活用

これまでの良好な連携を維持するとともに、新たな外部講師や協力先の開拓も継続する。キャリア教育の視点も含め、地域の資源を教育課程に組織的・計画的に取り入れることで、教育活動のさらなる充実を図る。

## 大阪市立 瓜破西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（小学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <b>42%</b>以上にする。</li> <li>2. 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <b>1ポイント向上</b>させる。</li> <li>3. 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>70%</b>以上にする。</li> <li>4. 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>80%</b>以上にする。</li> <li>5. 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を <b>70%</b>以上にする。</li> </ol> <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童アンケートの「よく本を読んでいる」で肯定的な回答をする児童の割合を <b>65%</b>を上回る。</li> <li>2. 学校児童アンケートの「授業中話あう活動ができた」で最も肯定的な回答をする児童の割合を <b>60%</b>以上にする。</li> </ol>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 教育の土台である言語力の育成を図り、重点支援校としての取組の推進</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><b>指標</b></p> <p>読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平野図書館の団体貸し出しを学期に1回程度活用し、学級文庫の充実を図る。</li> </ul> <p>協働的な学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を明確にしたペア交流やグループ活動等を1単元に1回以上行う。</li> </ul>	B

<p><b>基礎学力の定着</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用端末を活用した朝学習を週1回程度行う。</li> </ul> <p><b>外国語科・外国語活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語科・外国語活動の学習において、C-NET と連携し、アクティビティを取り入れた授業を週1回以上展開する。</li> </ul> <p><b>理科教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自校の特色である自然に恵まれた校庭を生かし、観察活動や体験学習を年3回程度行う。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b>  <b>運動意欲の向上と、健康的な生活習慣の定着を図る取組</b></p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p><b>運動意欲の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけあしタイムやおおなわタイム等、全校的な体力向上の取組を学期に1回程度行う。</li> </ul> <p><b>健康的な生活習慣の定着</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養指導や保健指導を通して、健康を意識できる取組を学期に1回程度行う。</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動では、平野図書館の団体貸し出しや「ひらちゃんノート」の活用、第二図書室の本を活用した学級文庫の充実など、本に親しむ環境を整えた。読書習慣は言葉の力を養う基礎となるが、今後は「ただ読む」だけでなく、調べ学習などを通じて「必要な情報を見つけ、活用する力」へとつなげる指導が重要である。</li> <li>・協働的な学びについては、様々な教科でペア交流やグループ活動を実施しており、中間評価時同様一定の成果が見られた。今後は更なる児童の思考を深める工夫が求められる。</li> <li>・学習者用端末を活用した朝学習は、立ち上げるまでの時間や手続きの多さがあり、取り組むことが難しかった。しかし、授業中のドリル学習などの活用は積極的に行い、基礎学力の定着には一定の効果があった。</li> <li>・外国語科・外国語活動では、C-NET との連携によりアクティビティを取り入れた授業を積極的に実施できており、高学年では週2回の取組ができている。児童は英語に対して高い興味・関心を持っており、主体的に話そうとする姿勢が見られた。</li> <li>・各学年ともに、生活科や理科の学習でアトリパークを活用することができた。学校の特色を生かした取組が定着している。児童の興味関心を高める効果があった。</li> </ul> <p><b>取組内容②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2学期は毎週のラジオ体操で運動の意識を高め、3学期には「駆け足タイム」や「縄跳び週間」、「大縄大会」を実施した。これにより、寒さで外に出にくい時期でも、児童が</li> </ul>	

進んで運動を楽しむきっかけを作ることができた。

・栄養教諭による専門的な食育授業を全学年で年 2 回ずつ実施するとともに、毎学期の健康週間では歯磨きの取組を行った。また、給食委員会による栄養クイズや給食週間の活動など、児童が主体的に健康について考える場も設けた。

#### 次年度への改善点

##### 1. 読書活動と基礎学力の定着

肯定的な回答が目標（65%）に届かなかった現状（60%）を踏まえ、貸出冊数だけでなく、ビブリオバトルや読み聞かせなど各学年の実態に応じた啓発活動を指標に設定し、本に親しむ質の高い機会を設ける。

端末の起動時間や手続きの多さが課題となった現状を踏まえ、実態に即した学習内容や指標への変更を検討する。授業で効果を上げているデジタルドリル等と併用し、基礎学力の確実な定着を図る。

##### 2. 協働的な学びの質の向上

中間評価時から継続してきたペア・グループ活動の成果を土台とし、今後は「話し合い」を通じて互いの考えを深め、広げられるような発問や指導の工夫をさらに強化する。算数科の研究で蓄積してきた「考えの可視化・共有」の手法を他教科にも広げ、学校全体で思考力を育む授業づくりを推進する。

##### 3. 外国語科・外国語活動

児童の英語に対する高い関心を維持しつつ、高学年で課題となる「読む・書く」活動への円滑な接続と、知識の定着を重視した指導を展開する。

##### 4. 理科教育

アトリパーク等を活用した観察活動を継続しつつ、実験結果から法則性を導き出す力や、自ら立てた予想を確かめる取組を重視し、科学的な思考力のさらなる向上を図る。

##### 5. 体力向上と健康な生活習慣づくり

中間評価で課題となった「外遊びの頻度の個人差」を解消するため、運動が苦手な児童も自発的に楽しめる遊びの工夫をさらに充実させる。

また、食育や歯磨きなどの指導では、委員会活動や家庭との連携を深め、児童が自分の健康に関心を持ち、主体的に生活習慣を整えられる力を育てる。

## 大阪市立 瓜破西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標(小学校)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</li> <li>学校保護者アンケートにおいて「学校はICT機器を活用した教育を推進している」で肯定的な回答の割合を90%以上にする。</li> <li>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を70%以上にする。</li> </ol> <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育コミュニティづくりを推進し、地域との新たな取組を開発する。</li> <li>年度末の児童アンケートの「学校の中で地域の人とふれあう機会があるか」の項目で肯定的回答が70%を上回る。</li> <li>年度末の教員アンケートで「校内研修が充実していたか」で肯定的回答が75%を上回る。</li> </ol>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 授業でのICT機器活用を推進する。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>ICT機器の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書、デジタルドリル、協働学習支援ツール等を、1日1回以上活用する。</li> </ul>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織作り】 教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること)を満たす教員の割合を70%以上にする。</li> </ul>	B

<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域と学校の協働活動を開発して教育コミュニティづくりを推進する。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>地域連携の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瓜西フェスタ等の地域交流型の行事を、学期に1回以上実施する。</li> </ul>	B
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織作り】 教員の資質向上を図る取り組みを推進する。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>教員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員の資質向上を目的としたメンター研修を月1回以上実施する。</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書や協働学習支援ツール等を「1日1回以上活用する」という指標を全校で継続し、目標を達成した。授業での日常的な活用により、資料提示や意見集約が円滑化し、理解の深化が図られた。</li> </ul> <p><b>取組内容②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、時間外勤務の抑制に努めた結果、基準を満たす教員の割合は大きく改善した。一方で、依然として時間外勤務の基準を上回る教員もいるため、次年度に向けて組織的な業務分担の見直しや、事務の効率化をさらに進める必要がある。</li> </ul> <p><b>取組内容③</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「瓜西フェスタ」に地域住民を招待するなど、地域交流型行事を継続的に実施した。また、ラジオ体操の実施場所をアトリパークに変更し、少人数単位での交流を促すなど、実態に即した工夫により地域との協働を推進した。生活科や総合的な学習においても、各学年で多様な地域連携を実現している。</li> </ul> <p>例 4年：世代間交流 6年：地域防災訓練 1年：昔遊び 6年：てんそう苑との交流 など</p> <p><b>取組内容④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づき、若手教員を対象としたメンター研修を月1回以上実施するとともに、外部講師を招いた全体研修も定期的で開催した。これにより、教員の資質向上に大きく寄与した。一方、放課後の会議や学習指導との兼ね合いから、研修時間の確保は引き続き課題となっている。</li> </ul>	

## 次年度への改善点

### 1. ICT 活用（教育 DX）

1日1回以上の端末活用を継続する一方で、今後は単に利用頻度を維持するだけでなく、児童の思考を深める効果的な活用場面を見直し、活用の質を高めていく。

また、朝学習における端末の起動遅延などの課題に対しては、短時間で効率的に運用できる方法を引き続き検討し、学校の実態に合わせたデジタル教材の活用体制を整えていく。

### 2. 働き方改革

大幅に改善した時間外勤務の基準達成率（70%）を維持するため、定時退勤日の設定や行事の精選を継続して実施する。特定の教員への負担集中を避けるため、組織的な業務分担の見直しや事務作業の効率化を継続的に進め、持続可能な勤務環境を構築する。

### 3. 地域連携

瓜西フェスタやアトリパークでの活動を継続しながら、児童が地域とのふれあいをより実感できる新たな双方向の交流活動を引き続き工夫して進める。地域資源を教育課程に計画的に位置づけ、児童が地域の一員として貢献を実感できる機会を継続的に設けることで、自己有用感の育成を図る。

### 4. 教員研修

高い評価を得たメンター研修や全体研修を継続し、若手からベテランまで教員の専門性を高める機会を維持する。研修時間の確保という常にある課題に対しては、内容の取捨選択や実施方法の工夫を引き続き行い、教員の負担を抑えながら、実効性の高い研修体制を確立していく。